

平成30年度丹波の森夢会議

「丹波の森夢屋台～あっぱれ！夢たんば」 記録

平成30年4月に発足した第9期丹波地域ビジョン委員会では、丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」に掲げる「自立」、「交流」、「元気」、「絆」、「安全安心」の5つの将来像をめざし、6つのグループが実践活動に取り組んでいます。

2年間の任期の折り返しにあたり、これまでの活動成果を楽しく発信するとともに、関係団体や地域住民等と意見・情報交換を行い、今後の「丹波の森づくり」や「兵庫2030年の展望」の実現に向けてさらなる活動の展開を図る「丹波の森夢会議」を開催しました。

- 1 開催日時 平成31年3月2日（土） 13:25～15:25
- 2 場 所 篠山市西紀老人福祉センター 健康教育ホール（篠山市宮田 216）
- 3 テー マ 「丹波の森夢屋台～あっぱれ！夢たんば」
- 4 参加者 81名
- 5 内 容

(1) 開会あいさつ

伊勢隆雄 丹波地域ビジョン委員会委員長

- ・大人になると1年があっという間に過ぎてしまうのは、毎日が同じ仕事の繰り返しになり、トキメキを感じる事が少なくなるためと聞く。
- ・ビジョン委員会の活動で大いにトキメキ、地域を盛り上げ、「丹波の森づくり」や「兵庫2030年の展望」の実現につなげていきたい。



(2) 実践活動グループのプレゼンテーション

グループごとに、活動の目的や、1年目の取組状況等についてPRしました。

将来像	グループ名	活動内容
自立	発見「食」丹波	地域に埋もれた MOTTAINAI 食材の活用（栗、柿、茶）
交流	グループつなぐ	人と人、地域と地域、過去と未来…等々を“つなぐ”取組
元気	建築学校プロジェクト	丹波篠山のまち全体を学校、古民家を教材に建築を学ぶ場づくり
	休耕田を活かそう！	耕作条件の悪い場所での、高齢者や女性にも可能な耕作放棄地対策の試行
絆	高齢者の生きがいづくり	高齢者の心と体の健康づくり講座の開催や、認知症の方との接し方の啓発冊子作成
絆 安全安心	ほっとねっと輪一く	生きづらさを抱える人への支援と、自治会等の集会の場を活用した安全安心啓発活動



(3) 夢屋台

各グループがパネル展示や、映像、パンフレットの配布等により活動内容を紹介し、来場者と活発に意見・情報交換を行いました。

また、中央スクリーンでは、動画等を上映しました。

〈発見「食」丹波〉



〈グループつなぐ〉



〈建築学校プロジェクト〉



〈休耕田を活かそう!〉



〈高齢者の生きがいがづくり〉



〈ほっとねっと輪—く〉



〈中央スクリーンでの動画等上映〉

「篠山市後川地区伝統の寒茶づくり」
(発見「食」丹波グループ)



紙芝居「ほめほめ商法にご用心」
(ほっとねっと輪—くグループ)



映像「丹波の森の姿」・「丹波の森づくりのこれまで」



(4) 講評 金澤和夫 兵庫県副知事

- ・丹波地域で多彩に地域と関わっている方々の深い思いが伝わってきた。各グループとも非常にユニークな（唯一無二という意味で）取組をされている。
- ・県では現在、「兵庫五国連邦（U5H）プロモーション」を実施している。「兵庫」よりも五国のそれぞれの方が明確なイメージがあり、各々の個性を打ち出すことで、兵庫の魅力をPRしようとしている。
- ・丹波地域にはブランド力がある。（栗や黒豆などの農産物、都会に近い田舎、豊かな自然、古民家再生、淡路と並んで若い移住者が多い、篠山マラソンやシューベルティアードなど関西一円から人が集まるイベント 等）
- ・一朝一夕にはつくりえない「ブランド力」は貴重。これを大切にすべき。

- 県政 150 周年にあたり、「兵庫 2030 年の展望」を策定した。目の前に課題が山積しているが、少し先の未来を想像し、その時どうありたいか、未来を考えて、今を見つめ直すということを投げかけてみたい。
- 10 年後、次代の社会を支えている人は誰か、考えるべき時にきている。いま兵庫にいる人だけで、「2030 年の展望」に示した将来像を実現することは困難。外から入って来る人がなければ、明るい展望はひらけない。
- 外の人に兵庫をどうアピールするかが、これまで以上に重要になる。県の枠を超え全国へ、世界へと発信しなければならない。ゴールデンスポーツイヤーズや大阪万博など、世界へ PR できる絶好の機会もある。
- 外国人が日本の良さを体験できるのは、丹波のような地域かもしれない。地域への愛着を深めることと、地域の魅力を外へ宣伝する努力、この二本立てで進める時期にきている。
- ビジョン委員会では地に足のついた活動が行われており、その基本を大切に、さらにもう一段の発展を期待する。県も地域の取り組みを支援したい。

(5) むすび

◇ 映像「丹波の森づくりのこれから」上映

◇ 閉会あいさつ 福本 豊 丹波県民局長

- 「丹波の森づくり」が昨年 30 周年を迎えたが、「丹波の森宣言」の内容は今も全く色褪せない。これからの「丹波の森づくり」の方向性として、「未来へつなぐ もりびとライフスタイル」を打ち出し、未来のタネを播き、次の展開を図っている。
- 「兵庫 2030 年の展望」では「五国を活かし 日本を先導 世界につなぐ」という姿が描かれているが、「五国を活かす」ということが、丹波地域ではまさに「丹波の森づくり」にあたる。
- 「みんなで丹波の森」を掲げる丹波地域ビジョン委員会の活動は、「丹波の森づくり」「兵庫 2030 年の展望」の実現に向けた取組であり、今後のさらなる展開を期待する。

